

科目名	解剖学	担当教員	座馬 耕一郎	時間数	30	時期	1年	前期
学習目標	人体の正常な構造を系統的に理解すること。 人体各部分の主な構造を、正確な解剖学用語を使って記述できること。							
教科書	全国歯科衛生士教育協議会監修, 前田健康他編, 「解剖学・組織発生学・生理学」. 医歯薬出版, 東京, 2022.					授業形態	講義	
参考書								

#### 授業内容

回	項目	授業内容	備考
1	組織 骨格①	序章(1~8)、上皮組織と支持組織(21~30)、骨格系概説(46~54)	
2	骨格② 筋系	体幹骨(56~58)、上肢骨・下肢骨(58~63)、筋系概説(64~65、69~70)、骨格筋(70~80)	
3	消化器 脈管①	消化器系の概要(84~86)、消化器の構造(86~97)、血管(109~112)	
4	脈管②	心臓(122~128)、動脈系・静脈系(139~147)、胎児の循環系(147~148)、リンパ系(148~153)	
5	感覚器 神経①	外皮(161~167)、特殊感覚器(167~177)、神経系の概要・基本構造(179~183)	
6	神経②	中枢神経系(185~191)、脳脊髄膜(192~193)、脳の血管(193~195)、末梢神経系(196~204)	
7	呼吸器、泌尿器、 内分泌、生殖器	呼吸器系(214~225)、泌尿器の構造(235~238)、内分泌器官の構造(247~254)、生殖器の構造(259~263)	
評価方法		筆記試験	
備考		授業内容の数字は、教科書のページを示しています。	

科目名	組織・発生学	担当教員	桐原 孝尚	時間数	30	時期	1年	前期
学習目標	歯科衛生士として人体の構造をより深く理解するために、組織構造ならびに発生に関する基本的知識を身につける。							
教科書	歯科衛生学シリーズ「人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学」「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版					授業形態	教科書、プリント、スライドによる講義	
参考書								

#### 授業内容

回	項目	授業内容	備考
1	組織・発生学とは 細胞 上皮組織、支持組織 (1)	組織・発生学についての概説 細胞の構造 上皮組織、支持組織(結合組織、軟骨組織)の組織構造	
2	支持組織(2) 筋組織 神経組織	支持組織(骨組織、血液)の組織構造 筋組織の組織構造 神経組織の組織構造	
3	エナメル質 象牙質	歯・歯周組織の構造の概要 エナメル質の組織構造 象牙質・歯髄の組織構造	
4	歯髄 セメント質 歯根膜	歯髄の組織構造 セメント質の組織構造 歯根膜の組織構造	
5	歯槽骨 歯肉・口腔粘膜 唾液腺・舌	歯槽骨の組織構造 歯肉・口腔粘膜の組織構造 唾液腺・舌の組織構造	
6	人体の発生 顔面と口腔の発生 歯の発生	人体の発生 顔面と口腔(口唇、口蓋、舌)の発生 歯・歯周組織の発生	
7	まとめ	重要項目のまとめ 国家試験問題の解説	
評価方法		試験 ・ 授業態度 ・ 出欠席状況	
備考			

科目名	生理学	担当教員	牧内 高	時間数	26	時期	1年	前期
学習目標	人体の正常な働きとその働く仕組みを理解する。							
教科書	歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学					授業 形態	講義	
参考書								

### 授業内容

回	項目	授 業 内 容	備考
1	生理学で学ぶこと I編 組織と発生	序章 生理学で学ぶこと 生理学とは 1章 細胞と組織 1 細胞の構造と機能 2 細胞の一生 3 細胞の基本的生理機能	
	II編 構造と機能	2章 筋と運動 2 筋の機能 3 運動	
2	II編 構造と機能	3章 消化・吸収 3 口腔での消化	
	II編 構造と機能	3章 消化・吸収 4~6 胃、小腸、大腸の機能	
3	II編 構造と機能	4章 循環 3 血管の機能 4 血液の機能 6 循環の生理	
	II編 構造と機能	5章 感覚 1 感覚の性質と種類、特徴 7 神経系の主な伝導路	
4	II編 構造と機能	6章 神経系 3 中枢神経系 7 神経系の主な伝導路	
	II編 構造と機能	7章 呼吸	
5	II編 構造と機能	8章 腎機能と排尿	
	II編 構造と機能	9章 内分泌	
6	II編 構造と機能	10章 生殖	
	II編 構造と機能	11章 体温	
評価方法		試験	
備 考		私は基本的には臨床医です。ですから講義の中に積極的に臨床の話 を織り込みたいと思っております。よろしくお願いします。	

科目名	生化学	担当教員	太田 克矢	時間数	18	時期	1年	前期
学習目標	<p>口腔を専門として扱う歯科衛生士にも、ヒトという生命体の形態や機能を理解することが求められる。さらに、職務の1つとして栄養学を基礎とした栄養指導も行う。これらの学問領域の発達に伴い、その基盤を生化学に求めつつある。したがってヒトをはじめとする生命現象の本質的な部分について、生化学を体系的に理解しておくことは、歯科衛生士の教育課程において重要となる。本科目では、これらを踏まえた上で、生化学の基礎的な知識を身につける。</p>							
教科書	<p>人体の構造と機能2 栄養と代謝(全国歯科衛生士教育協議会 監修・医歯薬出版株式会社)</p>					授業形態	<p>パワーポイントのプリント資料を配布し、説明する。</p>	
参考書	<p>指定しない</p>							

#### 授業内容

回	項目	授業内容	備考
1	序章: 生化学と栄養学 1章: 生体の構成要素	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生化学と栄養学, 生化学・栄養学を学ぶ意義</li> <li>・細胞の役割</li> </ul>	
2	1章: 生体の構成要素	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生体における水, 生体構成成分と栄養素(糖質)</li> </ul>	
3	1章: 生体の構成要素	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生体構成成分と栄養素(脂質, タンパク質, ビタミン, ミネラル)</li> </ul>	
4	2章: 生体における化学反応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消化と吸収(糖質, 脂質, タンパク質, ビタミン, ミネラル)</li> <li>・酸素の運搬と二酸化炭素の排出</li> </ul>	
5	2章: 生体における化学反応 3章: 糖質と脂質の代謝	<ul style="list-style-type: none"> <li>・代謝(代謝の役割とATP)</li> <li>・エネルギー代謝の全体像</li> <li>・糖質の代謝とエネルギーの生成</li> </ul>	
6	3章: 糖質と脂質の代謝 4章: タンパク質とアミノ酸の代謝	<ul style="list-style-type: none"> <li>・脂質の代謝とエネルギーの生成</li> <li>・タンパク質の加水分解</li> <li>・アミノ酸の代謝分解</li> </ul>	
7	4章: タンパク質とアミノ酸の代謝	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タンパク質の合成</li> </ul>	
8	5章: 生体内における恒常性の維持	<ul style="list-style-type: none"> <li>・恒常性(ホメオスタシス)とは</li> <li>・ホルモン系と自律神経系</li> </ul>	
評価方法		筆記試験	
備考			

科目名	口腔解剖学	担当教員	中塚 敏弘	時間数	30	時期	1年	前期
学習目標	歯科医学・医療に必須の基本的知識として、口腔及びその周囲組織の構造について理解する。							
教科書	歯科衛生学シリーズ「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版					授業形態	板書、プリント、スライドによる講義	
参考書	口腔解剖学サイドリーダー(学建書院)							

授業内容

回	項目	授業内容	備考
1	口腔解剖学とは 口腔とは	口腔解剖学および口腔についての概説 口唇、頬、口腔前庭、固有口腔、口峽	
2	舌 唾液腺	舌の構造 唾液腺の構造	
3	口腔顎顔面を構成する骨	頭蓋骨の構造 上顎骨、口蓋骨の構造 下顎骨、舌骨の構造	
4	頭頸部の筋 顎関節	頭頸部の筋(表情筋、咀嚼筋、舌筋、舌骨上筋)の構造と機能 顎関節の構造	
5	頭頸部の脈管 頭頸部の神経①	頭頸部に分布する動脈、静脈、リンパ系 頭頸部の神経(三叉神経、顔面神経、舌咽神経、迷走神経、舌下神経)の分布と機能	
6	頭頸部の神経② 咽頭と嚥下	頭頸部の神経(三叉神経、顔面神経、舌咽神経、迷走神経、舌下神経)の分布と機能 咽頭の構造と嚥下・嘔吐にかかわる構造	
7	歯および歯周組織の構造と機能	歯の構造、エナメル質、象牙質、セメント質、歯髄	
8	歯および歯周組織の構造と機能	歯根膜、歯槽骨、歯肉、歯周組織の生理、口腔粘膜	
評価方法		試験	
備考			

科目名	歯牙解剖学	担当教員	土田 実	時間数	42	時期	1年	前期
学習目標	歯と歯列の形と特徴を理解する。 歯の形を立体的に理解するために歯型彫刻を行う。							
教科書	口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学					授業 形態	講義及び実習	
参考書								

#### 授業内容

回	項目	授業内容	備考
1	歯牙解剖学講義	2章①歯の解剖学総論	
2	〃	②永久歯	
3	〃	②永久歯	
4	〃	③乳歯	
5	〃	④歯の異常⑤歯列と咬合	
6	〃	⑤歯列と咬合 まとめ	
7	歯牙解剖学実習	上顎右側中切歯の計測、スケッチ、歯型彫刻	
8	〃	上顎右側中切歯の仕上げ、完成、提出	
9	〃	上顎右側第一大臼歯の計測、スケッチ、歯型彫刻	
10	〃	上顎右側第一大臼歯の歯型彫刻、仕上げ、完成、提出	
評価方法		試験、その他((歯形彫刻)	
備考		毎回授業の開始に前回復習分の小テストを行う予定です。	

科目名	口腔生理学	担当教員	池上 英明	時間数	26	時期	1年	後期
学習目標	口腔の機能と働き・仕組みを理解する							
教科書	歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学、歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織学・口腔生理学					授業形態		
参考書								

#### 授業内容

回	項目	授業内容	備考
1	口腔生理学1	口腔生理学とは、歯牙及び周囲組織の構造と機能	
2	口腔生理学2	消化・吸収、排泄、内分泌	
3	口腔生理学3	歯と口腔の感覚、味覚、臭覚	
4	口腔生理学4	咬合、咀嚼運動と顎反射	
5	口腔生理学5	吸啜・嚥下・嘔吐、発声・構音	
6	口腔生理学6	発声・構音、唾液	
評価方法		試験	
備考			

科目名	口腔生化学	担当教員	江川 富士男	時間数	18	時期	1年	後期
学習目標	人間やプラークを化学的な側面から見ることでそれぞれがどんな働きをしているのかを理解し、診療に役立てる。							
教科書	栄養と代謝(歯科衛生学シリーズ)					授業形態	講義	
参考書								

#### 授業内容

回	項目	授業内容	備考
1	Ⅱ編 歯と口の生化学 1章 歯と歯周組織の生化学	歯と歯周組織	
2	Ⅱ編 歯と口の生化学 1章 歯と歯周組織の生化学	結合組織の要素	
3	Ⅱ編 歯と口の生化学 1章 歯と歯周組織の生化学	歯の成分の特徴	
4	Ⅱ編 歯と口の生化学 2章 硬組織の生化学	石灰化の仕組み	
5	Ⅱ編 歯と口の生化学 2章 硬組織の生化学	骨の生成と吸収 歯の脱灰と再石灰化	
6	Ⅱ編 歯と口の生化学 3章 唾液の生化学	唾液の組成と機能	
7	Ⅱ編 歯と口の生化学 4章 プラークの生化学	プラークによる齲蝕発生機構	
8	Ⅱ編 歯と口の生化学 4章 プラークの生化学	プラークによる歯周疾患発症機構	
評価方法		試験・授業態度	
備考			

科目名	口腔微生物学	担当教員	池田 岳史	時間数	22	時期	2年	前期
学習目標	口腔感染症と口腔常在菌との関わりを理解し、口腔衛生指導や予防措置の重要性を理解する							
教科書	疾病の成り立ち及び回復過程の促進2 微生物学(医歯薬版)					授業形態	講義	
参考書	特になし							

#### 授業内容

回	項目	授業内容	備考
1	口腔微生物学	口腔細菌叢、デンタルプラーク	
2	口腔感染症	う蝕、歯内感染症、歯周病	
3	化学療法	主な化学療法薬の種類と特徴	
4	院内感染対策	院内感染対策、滅菌、消毒	
5	細菌培養・観察	細菌培養法、顕微鏡観察	
評価方法		試験 ・ レポート ・ 授業態度 ・ 出欠席状況 ・ その他	
備考			

科目名	病理学	担当教員	上松 隆司	時間数	22	時期	1年	後期
学習目標	1) 組織学、生理学、解剖学などで学ぶ正常構造や機能を理解した上で、「病理学」とは「病気の理論を明らかにする学問」である事を理解する。 2) 口腔・顎顔面領域の病態を学ぶための基本的な病変の病因・病態・種類・転帰を理解する。							
教科書	歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進1 病理学・口腔病理学 (全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版株式会社)					授業形態	講義	
参考書	新・歯科衛生士教育マニュアル 病理学 (クインテッセンス出版株式会社)							

#### 授業内容

回	項目	授業内容	備考
1	1) 病理学序論と病因論 2) 遺伝性疾患と奇形	・病理学とは/病因論(内因と外因) ・遺伝とは/遺伝性疾患・奇形	
2	3) 循環障害 4) 代謝障害と退行性病変	・循環障害とは/循環障害の種類/細胞障害 ・変性と物質代謝障害/萎縮/細胞死(壊死とアポトーシス)	
3	5) 増殖と修復 6) 炎症①	・肥大と増生/化生/再生と修復/創傷治癒/異物処理 ・炎症とは/炎症の原因/炎症細胞とケミカルメディエーター/炎症の経過/転帰	
4	7) 炎症② 8) 免疫応答異常	・炎症の分類/炎症の臨床症状/感染症 ・免疫応答/アレルギー/自己免疫疾患/免疫不全症/移植免疫	
5	9) 腫瘍① 10) 腫瘍②	・腫瘍の発生/腫瘍の種類と性質/腫瘍の診断	
評価方法		筆記試験	
備考			

科目名	口腔病理学	担当教員	中村 千仁	時間数	22	時期	2年	前期
学習目標	歯や口腔組織に発現する疾病の病因、発生機序及び病変、予後について学習することにより、歯科予防処置、歯科診療補助、保健指導に際し必要となる知識を習得する。							
教科書	疾病の成り立ち及び回復過程の促進1 病理学・口腔病理学(医歯薬出版)					授業 形態		
参考書	新歯科衛生士教育マニュアル Pathology病理学(クインテッセンス出版)							

#### 授業内容

回	項目	授業内容	備考
1	1歯の発育異常 ~ 3う蝕	講義、スライド供覧	
2	4象牙質・歯髄複合体の病態 ~ 5歯周組織の病態①根尖部歯周組織の病変	講義、スライド供覧	
3	5歯周組織の病態②辺縁部歯周組織の病変 ~ 6口腔粘膜の病変	講義、スライド供覧	
4	7口腔領域の嚢胞と腫瘍 ~ 9顎骨の病変	講義、スライド供覧	
5	10唾液腺の病変 ~ 12口腔組織の加齢変化	講義、スライド供覧	
評価方法		試験	
備考			

科目名	微生物学	担当教員	坂田 憲昭 中畑 千夏子	時間数	22	時期	1 年	後期
学習目標	1. 微生物学の基礎的知識を身につけることができる。 2. 感染症の機構と成立、発症と治癒について理解することができる。 3. 感染経路と予防法について理解することができる 4. 感染症の原因となる主な微生物について理解することができる。 5. 免疫学の基礎的知識を身につけることができる。							
教科書	疾病の成り立ち及び回復過程の促進2 微生物学(医歯薬出版)					授業 形態	講義	
参考書	特になし							

#### 授業内容

回	項目	授業内容	備考
1	微生物学の基礎	微生物の種類と特徴、構造と機能、培養環境と栄養、遺伝	
2	感染学の基礎	感染と感染症、感染経路と予防	
3	病原微生物	主な病原性細菌①	
4	病原微生物	主な病原性細菌②	
5	病原微生物	主な病原性ウイルス①	
6	病原微生物	主な病原性ウイルス①	
7	病原微生物	主な病原性ウイルス②	
8	免疫	宿主防御機構と自然免疫	
9	免疫	獲得免疫:細胞性免疫と液性免疫	
10	免疫	免疫反応、ワクチン、過敏症	
評価方法		筆記試験	
備考			

科目名	薬理学	担当教	坂田 憲昭	時間数	30	時期	2年 前期
学習目標	生理学的及び病態生理学的知識を通して、治療に用いられる薬物の作用機序や副作用等を理解し、薬物療法についての基礎知識の習得を目指す。						
教科書	最新歯科衛生士教本 -疾病の成立ち及び回復過程の促進3- 薬理学 第2版			授業形態	スライド 講義資料 教科書		
参考書							

### 授業内容

回	項目	授業内容	備考
1	薬理学総論(1)	薬としての基本的性質・薬の作用点	
2	薬理学総論(2)	受容体と細胞内伝達系・薬の投与経路	
3	薬理学総論(3)	薬物の動態・薬物動態学的相互作用	
4	薬理学総論(4)	薬力学的相互作用・薬の副作用(有害作用)・医薬品の管理	
5	末梢神経系に作用する薬物(2)	交感神経作用薬・副交感神経作用薬	
6	末梢神経系に作用する薬物(3)	副交感神経作用薬・筋弛緩薬・局所麻酔薬	
7	中枢神経系に作用する薬物(1)	全身麻酔薬・催眠薬・抗不安薬	
8	中枢神経系に作用する薬物(2)	抗精神病薬・抗うつ薬	
9	中枢神経系に作用する薬物(3) 循環器系に作用する薬物(1)	抗パーキンソン病薬・抗てんかん薬 高血圧症治療薬	
10	循環器系に作用する薬物(2)	高血圧症治療薬・狭心症治療薬	
11	循環器系に作用する薬物(3)	心不全治療薬・抗不整脈薬	
12	呼吸器系に作用する薬物 血液に作用する薬物	気管支喘息の治療薬 血液凝固系や線溶系に作用する薬物 貧血の治療薬	
13	代謝疾患治療薬 解熱・鎮痛・抗炎症薬	糖尿病と脂質異常症(高脂血症)の治療薬 非ステロイド性抗炎症薬・ステロイド性抗炎症薬	
14	抗感染症薬	感染症治療に関する基礎的事項と抗菌薬	
評価方法	筆記試験 授業態度 出席状況		
学生へのメッセージ	我々は患者の治療に薬物を用います。このためには、ヒトの体の中にもともと備わった恒常性を保つための仕組みと、その異常によって引き起こされる病態の理解が欠かせません。 この講義では、そうした生理学的な知識をもとにして、薬が「なぜ」、「どのように」作用するのか、その有害作用等も含めて学びます。		
備考			

科目名	栄養学	担当教員	竹下 則子	時間数	30	時期	1年	後期
学習目標	人の健康保持増進に不可欠な栄養・食生活分野の習得を通して、口腔機能に果たす役割と関連性について学ぶ。							
教科書	人体の構造と機能2「栄養と代謝」					授業形態	講義	
参考書	八訂食品成分表2024版(女子栄養大学出版部)							

#### 授業内容

回	項目	授業内容	備考
1	第1章 栄養の基礎知識	栄養学の視点・栄養の知識を学ぶ理由	
2	〃	日本人の栄養摂取状況	
3	〃	栄養素の消化・吸収	
4	〃	栄養素の役割	
5	第2章 食事摂取基準	食物のエネルギー、基礎代謝	
6	〃	日本人の食事摂取基準	
7	〃	日本人の食事摂取基準・基本的な活用方法	
8	第3章 栄養素の働き	糖質の栄養的意味	
9	〃	たんぱく質の栄養的意味	
10	〃	たんぱく質の栄養的意味	
11	〃	脂質の栄養的意味	
12	〃	ビタミンの栄養的意味	
13	〃	ミネラルの栄養的意味	
14	〃	水・食物繊維の栄養的意味、[栄養の基礎]まとめ	
評価方法		試験 ・ 授業態度 ・ 出欠席状況	
備考			

科目名	口腔衛生学 I	担当教員	下島 要	時間数	30	時期	1年	前期
学習目標	口腔疾患の疫学、予防および全身の健康管理に寄与する知識を習得する。							
教科書	歯科衛生学シリーズ 保健生態学 第2版					授業 形態	講義	
参考書	新歯科衛生士教本 口腔衛生学・歯科衛生統計(医歯薬出版)、 歯科保健関係統計資料(口腔保健協会)							

#### 授業内容

回	項目	授業内容	備考
1	I 総説1	歯科衛生士業務と口腔衛生学、口腔保健と予防	
2	II 総説2	歯・口腔の発育と変化 歯と口腔環境、歯の付着物と沈着物	
3	III 口腔清掃	プラークコントロール、口腔清掃用具、歯磨剤と洗口剤、ブラッシング	
4	IV う蝕の予防1	う蝕の有病状況、う蝕の発生要因と機序、う蝕のリスク評価、予防方法	
5	V う蝕の予防2	フッ化物の知識 フッ化物応用 によるう蝕予防	
6	VI 歯周病の予防	歯周病の有病状況、症状と分類 発生機序、 全身との関連、予防方法	
7	VII 口臭の予防・ 口腔保健活動	口臭の要因、予防ライフステージごとの歯科疾患予防対策	
評価方法		試験・レポート・出欠席状況	
備考			

科目名	口腔衛生学Ⅱ	担当教員	池上 秀樹	時間数	30	時期	2年	後期
学習目標	地域歯科保健における集団レベルでの歯・口腔疾患の予防、健康管理を理解する。地域歯科保健に必要な、歯科疾患の疫学調査と保健統計処理の基礎を理解する。							
教科書	歯科衛生学シリーズ 保健生態学 第3版 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 保健情報統計学 第1版 医歯薬出版					授業 形態	講義	
参考書	歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版 医歯薬出版 歯科衛生士テキスト 口腔衛生学 第4版 学研書院							

#### 授業内容

回	項目	授業内容	備考
1	地域歯科保健総論	地域保健の概要、健康日本21における歯科保健目標、健康増進法、歯科口腔保健法	
2	母子歯科保健	母子歯科保健の概要、妊産婦・乳幼児歯科健康診査と保健指導	
3	学校歯科保健	学校歯科保健の概要、学校における歯・口腔の健康診断と事後措置	
4	成人・高齢者歯科保健 産業歯科保健	特定健診と特定保健指導、介護保険、介護予防事業 産業保健の概要、職業性疾病・口腔領域における職業性疾病	
5	歯科疾患の疫学①	歯科保健統計、疫学調査方法、齲蝕の指数、歯周病の指数	
6	歯科疾患の疫学②	口腔清掃状態の指数、歯のフッ素症の指数、	
7	歯科疾患の疫学③	統計分析の基礎	
評価方法		試験・レポート・出欠席状況	
備考			

科目名	統計学	担当教員	松本 淳子	時間数	22	時期	1 年 後期
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・統計資料の整理および分析について理解し, Excelを用いて簡単な解析ができる.</li> <li>・保健に関連する統計資料をExcelを用いて解析し, それをもとに考察できる.</li> </ul>						
教科書	全国歯科衛生士教育協議会(監)(2011). 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み3 保健情報統計学 医歯薬出版					授業形態	講義・演習
参考書	適宜紹介する						

#### 授業内容

回	項目	授業内容	備考
1	保健統計の方法	母集団と標本	
2	保健統計の方法	データの特徴	
3	保健統計の方法	代表値と散布度	
4	保健統計の方法	相関	
5	保健情報の分析演習	データの表現	
評価方法		試験, 提出物	
備考			

科目名	衛生学・公衆衛生学	担当教員	松岡 裕之 佐伯 成規	時間数	30	時期	2年	前期
学習目標	歯科衛生士として必要な衛生学及び公衆衛生学の知識・手法・考え方についての理解を深める。							
教科書	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 歯科衛生学シリーズ 保健生態学 医歯薬出版					授業 形態	講義	
参考書								

#### 授業内容

回	項目	授 業 内 容	備考
1	総論	健康の概念 予防医学の概念	
2	疫学	疫学の定義および概要 疫学の方法	
3	人口	人口の動向 人口動態統計 生命表	
4	健康と環境	環境の概念 空気・水・放射線・住居・衣服・地球環境の変化・公害と健康 廃棄物処理	
5	感染症	感染の成り立ち 感染症の予防 主な感染症の動向	
6	地域保健	地域社会と地域保健の概念 地域保健の組織 地域保健の新たな概念	
7	地域保健	地域保健活動の進め方 健康づくり対策と地域歯科保健	
8	母子保健	母子保健 小児保健 歯・口腔について 母子保健の現状と	
9	学校保健	学校保健の意義および概要 学校保健活動と組織 学校歯 科保健	
10	食品と健康	食品衛生	
11	成人保健	成人保健の意義と特徴 成人保健活動の現状 成人保健 対策 成人期の歯科保健	
12	産業保健	産業保健の概念 職業性疾病 産業保健管理 産業保健活	
13	老人保健	高齢者保健の意義 高齢者保健のための行政組織と関係する	
14	精神保健 国際保健	精神保健の定義 精神保健・医療・福祉 精神障害者の歯科保健 災害時の保健医療対策 被災地での歯科保健活動 国際保健	
評価方法		試験 ・ レポート ・ 授業態度 ・ 出欠席状況	
備 考			

科目名	衛生行政	担当教員	瀬戸 齊彦	時間数	16	時期	2年 後期
学習目標	歯科衛生士にとって基本となる関係法規及び衛生行政の概要に関する、基礎的な知識を習得する。						
教科書	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み2「保健・医療・福祉の制度」(全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版(株))					授業形態	講義及び国家試験問題演習
参考書							

#### 授業内容

回	項目	授業内容	備考
1	法学入門	法律学の入門的事柄 (法律の成り立ち、法律の考え方など法律に関する知識について)	
2	歯科衛生士と法律 1	・衛生行政とはどのようなものか ・歯科衛生士に関する法律についての解説	
3	歯科衛生士と法律 2 医療関係職種 1	・歯科衛生士に関する法律についての解説 ・歯科医療と関わる医療関係者についての解説 (歯科医師法、歯科技工士法、歯科口腔保健の推進に関する法律等)	
4	医療関係職種 2	・歯科医療と関わる医療関係者についての解説 (保健師助産師看護師法、放射線技師法、医師法等)	
5	他の関係法規 演習問題	・薬事衛生法規、地域保健に関連する法規など衛生に関わる法規の解説 ・演習問題	
6	医療の動向	・医療の動向 (国民の健康、医療施設、医療従事者、国民医療費の状況等)	
7	演習問題解説 まとめ	・演習問題と解説 ・衛生行政のまとめ	
評価方法		試験 ・ 授業態度 ・ 出欠席状況	
備考			

科目名	社会福祉	担当教員	隣谷 正範	時間数	18	時期	2年 後期
学習目標	社会福祉の概要及び福祉に関わる法律等に基づく各種制度・仕組みについて理解する。						
教科書	『歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み2 保健・医療・福祉の制度』医歯薬出版					授業形態	講義
参考書	資料を配布する予定						

#### 授業内容

回	項目	授業内容	備考
1	社会保障の概要 医療保険	○ 社会保障制度の概要と定義 ○ 医療保険 ・ 医療保険の種類・内容等	
2	年金保険 雇用保険・労働者災害補償保険	○ 年金保険 ・ 年金の仕組み等 ○ 雇用保険と労働者災害補償保険	
3	生活保護	○ 生活保護 ・ 各扶助の内容等 ・ 生活保護の動向	
4	子ども家庭福祉①	○ 少子化及び地域子育て支援等 ○ 児童虐待の現状等(1)	
5	子ども家庭福祉② 母子・父子・寡婦福祉	○ 児童虐待の現状等(2) ○ 母子・父子・寡婦福祉等	
6	社会福祉行政等	○ 社会福祉行政の沿革と行政組織 ○ 社会福祉の専門職 ○ 公的扶助・福祉等の位置づけ	
7	障害者福祉	○ 障害者福祉 ・ 障害者総合支援法の概要 ・ 障害の定義と障害者支援の各種サービス・内容等	
8	介護保険 高齢者福祉 その他の諸施策	○ 介護保険 ・ 介護保険及び高齢者福祉における各種サービス ○ 高齢者の権利擁護と虐待の防止	
評価方法		試験	
備考			

科目名	基礎医学	担当教員	三浦 大志 上條 明生	時間数	18	時期	3 年 前期
学習目標	歯科臨床で遭遇する頻度の高い疾患の概要・分類・症状・検査・治療の基本などを学習し、それらがどのように歯科と関連しているのかを学習する。						
教科書	歯科衛生士のための全身疾患ハンドブック, 医歯薬出版株式会社					授業形態	講義
参考書							

授業内容

回	項目	授業内容	備考
1	代謝・内分泌疾患	① 糖尿病 ② 骨粗鬆症 ③ 甲状腺疾患	
2	消化器疾患	① 胃食道逆流症(GERD) ② 胃炎・胃癌 ③ 胃潰瘍・十二指腸潰瘍(消化性潰瘍) ④ 肝炎・肝硬変	
3	循環器疾患 血液疾患	① 心疾患・不整脈 ② 高血圧症・低血圧症 ③ 血液疾患(貧血・白血病・血友病)	
4	呼吸器疾患	① 肺炎 ② 気管支喘息 ③ 慢性閉塞性肺疾患(COPD) ④ 結核 ⑤ 睡眠時無呼吸症候群(SAS)	
5	腎・泌尿器疾患 免疫疾患・膠原病	① 腎疾患 ② アレルギー ③ 膠原病・リウマチ性疾患 ④ シェーグレン症候群 ⑤ アトピー性皮膚炎	
6	感染症	① インフルエンザ ② カンジダ症 ③ 後天性免疫不全症候群(AIDS)	
7	神経疾患 精神疾患	① 脳血管障害 ② てんかん ③ 認知症 ④ 神経難病 ⑤ 心身症・神経症 ⑥ うつ病 ⑦ 統合失調症 ⑧ 発達障害	
8	がん 産科・婦人科疾患 妊娠	① がん ② 頭頸部がん ③ 妊娠による身体の変化 ④ 更年期障害	
評価方法		試験・授業態度	
備考			